P.2

新四百

私の書斎

かわたけしげとし
川竹重俊
（早大名誉教授 芸術院会員）

ぐらい、ほんとうの仕事場である。全に、なると、足が冷えるのだ。四畳半に坐って机に向かう。

富士山の見える

机の上にはペンと四と右と懐中時計、この十六の時計の時計がある。ものを、時時計は用いたことが、ない。何しろ関東大震災である。ものなくしたり、直後十年四で買った二ツ、ケル側のモノ一ドゥ、ガッと四十年事仕ってくる。

右わきの整理箪笥の一番上には家伝の手帳。二番目には出版関係や事務のあれこれ。三番目はいろんな接拶類。四番目には事務用紙や便箋。五番目に書用の袋。私は不用になった原稿用紙の裏に下書きをするのだ。あとは事務関係の書類。六番目には事務用とハンコの箱。寒くなると、電気こたつの上に小箱の小箱。仕事をする。見ると、埼玉県庁のかたが、来て、建設とする小さな額がある。

埼玉県庁